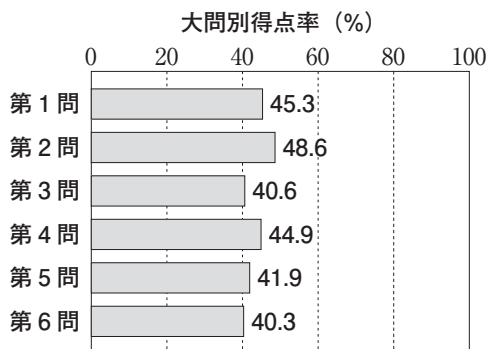
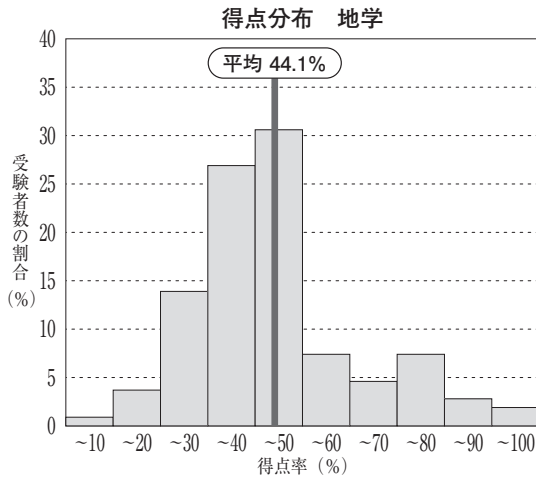


地 学

最後まで練習を積み、1点にこだわろう。

I. 全体講評

今回の得点分布は、次のようになっている。平均点は44.1点であった。前回よりも着実に得点が伸びている。なお、「地学」は「地学基礎」に比べて学習項目が多いが、教科書をしっかりと理解することで高得点を狙える科目である。最後まで気を抜かずに得点を伸ばしていくようにしよう。



II. 大問別分析

第1問 固体地球の活動

知識を論理的に捉えよう。

Aでは地球内部を伝わる地震波の経路と地球の層構造の関係についての総合的理解を確認した。問題図1はP波の走時曲線だが、S波の走時曲線も確認しておこう。

Bでは横ずれ断層の動きと地震の初動の関係、断層と地震の関係についての基礎的理解を確認した。地震計の記録から初動の向きを読み取り、押し波と引き波の分布を描けるようにしておこう。

Cではアイソスタシーについての基礎的理解と計算力および重力異常についての理解を確認した。アイソスタシーについては方程式の立て方を練習しておこう。また、重力異常については各重力補正の仕組みと重力異常から得られる情報について整理しておこう。

第2問 地質と岩石

知識を基に仕組みを理解しよう。

Aでは広域変成作用と日本列島の地質構造区分と変成帯についての総合的理解を確認した。変成作用と変成岩について、その形成場所と特徴を整理しておこう。また、鉱物が示す温度・圧力条件についても確認しておこう。

Bでは酸素同位体比による気候変動の推定と炭素14法の原理についての理解を確認した。寒冷期と温暖期の酸素同位体比の変化の仕組みを確認しておこう。また、炭素14法以外の絶対年代測定法とそれらの半減期についてまとめておこう。

第3問 大気と海洋

図やグラフの読み取りに慣れよう。

Aでは温帯低気圧と偏西風波動の関係についての基礎的理解を確認した。高層天気図は日常ではあまり見慣れないものだが、図の読み取り方に慣れておこう。

Bでは雲粒と氷晶の成長についての基礎的理解を

確認した。解説の図を参考に、氷晶が成長する仕組みを正しく理解しておこう。また、氷晶雨と暖かい雨との違いも確認しておこう。

第4問 太陽系と恒星

計算力を付けよう。

Aでは彗星とケプラーの法則についての基礎的理解と計算力を確認した。センター試験の「地学(現行課程)」になってからは、ケプラーの法則はまだ出題されていないが、2014年と2012年の「地学I(旧課程)」では出題されている。3つの法則を正しく理解しておこう。

Bでは恒星についての知識と恒星の距離を求める計算力を確認した。等級の違いと明るさの違いとの関係や、明るさと距離との関係は、正しく把握しておこう。また、問5の解説の公式を使いこなせるようにしておこう。

第5問 岩石・鉱物と古地磁気

造岩鉱物や地磁気の知識を整理しよう。

Aでは岩石の偏光顕微鏡観察についての基礎的理解と斜長石についての総合的理解を確認した。できれば実際に岩石薄片を顕微鏡で観察し、主な造岩鉱物の特徴をまとめておこう。

Bでは残留磁気から得られる情報と地磁気の反転についての基本的理解を確認した。残留磁気が岩石に保持される仕組みや、さまざまな時間スケールでの地磁気の変化についてまとめておこう。

第6問 水と地球環境

知識を応用しよう。

水の特徴と循環についての総合的理解を確認した。問題図にある数値を覚える必要はないが、問3や問4のような計算をするときの解き方を理解しておこう。また、計算では桁を間違えないように注意しよう。

なお、第5・6問は選択問題になっている。両問題をざっと見比べた上で、取り組みやすい方を選択すればよい。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆これからの学習について。

入試本番では、必ず見直す時間を確保したい。例

えば、センター試験では試験時間60分のうち、10分程度を見直しにあてられれば理想的である。そのためには普段から制限時間よりも短い時間を設定し、負荷をかけた演習を行うことが有効である。

また、入試本番では、塗り残し、マークのずれはないか、など確実にマークできているかの確認を必ず行おう。

◆模試を活用しよう。

これから先の期間は、新しい問題集などに手をつけるのは避けよう。今まで取り組んできた問題の復習に注力してほしい。見たことはあるが、解けなかったという悔しい思いをしないように、今まで自分が学習してきた内容を最後の最後まで徹底的に復習しよう。特に、これまでの模試の解説を見直すことは直前対策として有効である。センター試験では過去問と類似した内容が出題されている。傾向を把握し、時間配分の訓練をするためにも、過去問は徹底的に演習を積もう。また、解説をしっかりと読み込み、疑問点を残さないようにしよう。やりっぱなしでは効果がない。

今まで受けてきた模試の結果から、自分の得手不得手が改めてみえてくるはずである。それらの結果をもとに再度弱点を補強しておこう。